



新板
八

辨鏡印次第

計

~13
4409
2



辨説^{せんせつ} 呼吸^{くわきゅう} 身^み 卷^{まき} 之^の 式^{しき}

同 録 妖 怪

身^み 之^の 破^{やぶ} 遠^{とほ} 某^{たれ} 其^{その} 體^{たい} 忽^{たち}

ての^の 中^{ちゆう} で 自^{みづか} 後^ご 其^{その} 鼻^び 乃^{すなは} 之^の 式^{しき}

おし^{おし} 身^み やい^{やい} ごと^{ごと} の^の 濁^{じやく} ま^ま の^の 人^{ひと} 是^{こゝ} 也^{なり}

あ^あ う^う ち^ち 穿^{せん} 人^{ひと} の^の 多^{おほ} 量^{りやう} の^の 身^み 之^の 式^{しき}

と^と 身^み 之^の 式^{しき} 又^{また} 身^み 之^の 式^{しき} 乃^{すなは} 之^の 式^{しき}

身^み 二^に 體^{たい} 妙^{めう} 身^み 其^{その} 歸^{かへ} 効^{きう}

祝儀に盡く文く人後世話も奇人旅
老松岡婦きれ命多とけて呉と二包
袖も法むうま一さハ中取大如回を

第三小狐物怪

う法と又海よりちる海に細と
切又小蛇れいなら山のたの意よあつ
あめ花娘とと秀とそく一海に舞台
つたあもろくぬこ一りせれ難題



辨親叩伏身卷之式

改訂某抄之巻

怪塵に弱る身とふじとま海のおさねとらげきほるごころ蘇
あまのあかるとは法のさであるえとらとまあつあふういそんあ
むさうささるまうは香とふまどる士農工商乃中はあけて
うけ身やとらけつあつらめいあじ飛るあつとひらか一はあもいれ
一うあむむにまけるゆいせとあ村をささきあの方よりいひげあ
あげらるまがらるちひなほとらぬたけあふるらるまら
さうあせとらけいゆえとらるままあ今大かほまをるあさあ
つじきるはあじあのゆいそとああままらつらうあの中よりう
一はたあだの山ああすは何系とらあああもあはあはあは
いそでまらうまあまげとらああはらうたいでまらああ

人のまへに
 又鳥鏡の機
 同く目さ
 房らびひも
 下き一回遠
 世のどく少
 のこと業のどく少
 うう一言の下み
 を物うふの
 長たう
 目眼あ
 うま
 融め
 はま

人のまへに
 又鳥鏡の機
 同く目さ
 房らびひも
 下き一回遠
 世のどく少
 のこと業のどく少
 うう一言の下み
 を物うふの
 長たう
 目眼あ
 うま
 融め
 はま



新編

二巻

かけん...
こけり

龍妙圓光帝教

長年元元より...
今ふ...
しる...
と...
ありて...
と...
目...
若...
あ...
子...

ある...
が...
あ...
今...
と...
あ...
今...
け...
と...
か...
と...

...

れ大船の如くしてはゆき舟家と云ふれを辨くあるせしに
佐々木房ちりまよてむと今とて今百と云ふ事なきかの
とて又眞を辨く入るとせし舟人の語げはとを公の事と云ふ
事どももちこぐりもあきれ過る事なりんあ中入る事と云ふ
ちせしてよひは宿あし夜ともはちあんと七言なるせと云
あきつたのころもさうなと云ふびんあつたあ人色後と云ふ佐
木を来りたる我れ来れりもさうなと云ふのいぬと井原を家
印しるる指本つらむれあうと云ふて我れと云ふ事とのいぬおす
一あつたのいぬは是れまゝ今居るつらむれと云ふやうにいと云ふ
そせうと云ふ事からうかぬていぬと云ふていぬといぬの
ちらひのいぬと云ふ事もいぬと云ふ事からうかぬと云ふ
そいぬと云ふは三つにいぬと云ふていぬといぬと云ふ事
あつた三つにいぬと云ふていぬといぬと云ふ

あつた三つにいぬと云ふていぬといぬと云ふ

小狐の物語

まのら佐々木家にて砂原家宅と云ふ舟とありて名
れとていぬといぬといぬ三つにいぬと云ふていぬといぬと云ふ
あつた三つにいぬと云ふていぬといぬと云ふ
かりと云ふもち今と云ふ事なりんあ中入る事と云ふ
まてま今と云ふ事なりんあ中入る事と云ふ
あつた三つにいぬと云ふていぬといぬと云ふ
いぬといぬと云ふ事なりんあ中入る事と云ふ
まてま今と云ふ事なりんあ中入る事と云ふ
あつた三つにいぬと云ふていぬといぬと云ふ
かりと云ふもち今と云ふ事なりんあ中入る事と云ふ
まてま今と云ふ事なりんあ中入る事と云ふ
あつた三つにいぬと云ふていぬといぬと云ふ



浪 なみ 旗 はたき 唯 ただ 着 き 靡 ひら 名 な
しん ん か が か の

萬舟
まんのふね

ろくろんんれい
そとふ

ろくろん
ん

千草... (vertical text columns starting with 千草, reading right to left)

人々を好むものありて
 物程の程のよきものぞ
 今の
 世の
 俳諧作小
 五文字後附の
 無きものありて一宗道
 と呼ばれて切字には
 折合をうめうめいひのまゝ
 ありて名う寝の
 中への俳諧作
 荒涼小
 人々を好むものありて



俳諧作小
 五文字後附の

是ぞ俳諧の
 時物

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dense, flowing style across the page.

けりあておらんとたれうからい

Handwritten text in a cursive script, continuing the narrative or record on the left page.

夜目^みに^み寝^みき^みの^み寝^みう^み一^みと^みと^み

Handwritten text in a cursive script, continuing the narrative or record on the left page.

Handwritten marginal note or signature on the left side of the page.

Handwritten marginal note or signature on the left side of the page.

つひに今をあたふとてしるすべしとて中をさへいひて申す
ふもまらねばとてしるすべしとて中をさへいひて申す
とて申すべしとてしるすべしとて中をさへいひて申す
とて申すべしとてしるすべしとて中をさへいひて申す
とて申すべしとてしるすべしとて中をさへいひて申す
とて申すべしとてしるすべしとて中をさへいひて申す
とて申すべしとてしるすべしとて中をさへいひて申す
とて申すべしとてしるすべしとて中をさへいひて申す
とて申すべしとてしるすべしとて中をさへいひて申す
とて申すべしとてしるすべしとて中をさへいひて申す

とて申すべしとてしるすべしとて中をさへいひて申す
とて申すべしとてしるすべしとて中をさへいひて申す
とて申すべしとてしるすべしとて中をさへいひて申す
とて申すべしとてしるすべしとて中をさへいひて申す
とて申すべしとてしるすべしとて中をさへいひて申す
とて申すべしとてしるすべしとて中をさへいひて申す
とて申すべしとてしるすべしとて中をさへいひて申す
とて申すべしとてしるすべしとて中をさへいひて申す
とて申すべしとてしるすべしとて中をさへいひて申す
とて申すべしとてしるすべしとて中をさへいひて申す

新編 平家物語 卷之八 終

夜目うとてまけい 兼光 兼光 兼光
兼光 兼光 兼光 兼光 兼光 兼光 兼光 兼光 兼光 兼光

